

2017年度日本フンボルト協会第三回常務理事会議事録

日 時: 2018年4月7日(土) 14時~16時20分

場 所: テレビ会議。

京 都 会 場 (メイン会場): 同志社大学 寒梅館 6階大会議室

東 京 会 場: 早稲田大学 早稲田キャンパス 26号館 11階 1102号室

名古屋会場: 名古屋工業大学

出席者: 京 都 会 場 櫻田嘉章、西川伸一、伏木信次、岡林洋、高橋義人

東 京 会 場 縣公一郎、伊藤眞、高橋宗五、高橋輝暁、高山佳奈子、鏝田武志、廣渡清吾

名古屋会場 種村眞幸

議 事

(1) 2018年度総会のプログラムについて(担当: 高山常務理事)

日 時: 2018年6月2日(土)

場 所: 京都大学本部(吉田)キャンパス 法経本館他

詳細については、既に12月に確認済みの別紙に基づいて、高山常務理事による説明があり、了承された。

(2) 日本フンボルト協会名誉会員について

フォン・ヴェルテルン駐日ドイツ大使を名誉会員に任ずる件については、常務理事会で決定し、理事会及び総会に提案し、会則に従い、総会の承認を得ることとする。なお、講演会の前に同大使にUrkundeを授与することになった。

(3) 留学説明会の進捗状況(担当: 鏝田常務理事)

- ・全体説明会でのフンボルト奨学金については、高山常務理事が説明する。
- ・分科会は5分科: 人文系、社会科学系、理工系、生命系、医学系。
それぞれの分科会の司会者は決定済み。
- ・最近帰国した留学経験者を選定中。また、DAADについては引き続き検討する。
- ・フンボルト奨学金の日本人研究者の採択率が40%と高く、採択されるチャンスが大きいことを、分科会などで周知してもらいたい旨の依頼が、鏝田常務理事よりあった。

(4) 会 計(担当: 高橋輝暁常務理事)

高橋担当常務理事から以下の説明があった。

- ・決算について、会員の50%による会費納入があることを前提に予算を立てたが、決算では40%の納入となり、648千円の赤字であった。
- ・会費納入会員数は減少傾向にあり、2016年度に大幅に落ち込み、2017年度もさらに減少するという憂慮すべき状況である。その要因として、会員の高齢化、若手の加入率の減少が考えられる。
- ・フンボルト財団からの支援金の増加により、全体では459千円の減収となった。
- ・収入の項目に懇親会参加費という項目を加え、これを総会関係費に加えることとした。

上記の問題に対処する方策が議論され、支部運営助成金の減額、会費の徴収方法の変更、若手の帰国者にフンボルト協会への加入を勧めるなどの方策が出され、若手帰国者のフンボルト協会への加入については、帰国者のリストなどの活用や、フンボルト財団にも協力を求め、引き続き検討することとなった。特に、フンボルト財団に協力も求める件については、フンボルト財団 Auf der Heide 事務局長との会合（4月18日）の際に、日本フンボルト協会として要請することになった。

（5）第2期日本奨学金

- ・別紙に基づき、廣渡常務理事から基本的な考え方について説明がなされ、奨学金制度を設ける点については常務理事会として承認され、本年度の理事会、総会に諮り承認を得ることが了承された。
- ・募金の目標と進め方などについては、次回常務理事会で成案を検討することになった。

その際、

- *協会会員に推薦資格があり、ドイツから若手研究者を呼ぶことになること、若手の定義
- *50万円の使途については前回同様自由とすること
- *募金の割り振りについて、1200万円のうち1000万円を奨学金に充て、200万円を基金に回すことが考えられるなどが議論された。

- ・本件については、引き続き本奨学金WGで詳細を検討し、次回、常務理事会で改めて審議することとなった。

（6）支部長の交代と指名

北海道支部の山田貞三支部長より、櫻田理事長に支部長の交代について連絡があり、これを受けて居城邦治理事を支部長に指名した。

（7）その他

1) HPについて（担当：鏑田常務理事）

- ・HPに掲載する訃報については、特別なケースのみ掲載し、追悼文掲載の可否はHP委員会で判断する。また、追悼文の依頼については、常務理事会で検討することが了承された。

併せて、

- ・現理事長・副理事長、元理事長・副理事長については弔電を送る。その他の役員については、理事長の判断で、理事長個人が弔電を送る。これを内規とする。

2) Auf der Heide 氏の東大訪問（4月18日）について

浅島誠氏（東大名誉教授）の紹介で東大理学部 Innovation 棟を訪問することが紹介された。

3) 予算関係（担当：高橋輝暁常務理事）

- ・新たに購入したPCの費用はDAADと折半で負担することになった。
- ・年会費の納入率を上げるために、改めて理事長名でメールを送付し、会費の支払いを促すと同時に協会の活動の紹介も行う。

などの報告・提案があった。

（以上）